ゲイカップルの親たちのコミュニティ

Gay Dad Australia

Co-Founder

Rodney Chiang-Cruise

Q. このグループについて教えてください。

親になりたいゲイカップルをつなげるために 6 組のゲイカップルがコアになって 13-14 年前に設立された。

当時ゲイカップルの養子はできず、里親はできたがかなり限定されていた。共同親権で親になる方法か代理出産があった。当時、代理出産はまだかなり新しい方法だった。このグループのメンバーは代理出産で親になるゲイカップルがメイン。代理出産にアクセスできるのは、当初は、高学歴の専門職で高収入、高年齢のゲイカップルだけだった。

いまオーストラリアに会員は 1,000 人ほどいる。各州にもサブグループがあり、全部合わせると 3,000-4,000 人くらいになると思うが、入れ替わりも結構ある。メンバーになるためには審査がある。Facebook で連絡を取り合う方法が今は主流だ。その他にメールや実際に会うこともある。互いに自分の経験を交換しあってメンバーが成長できるモデルを作っている。

各州のサブグループの中では、Rainbow Families と連携している NSW 州のグループが政府から支援を受けている。タスマニアと北部準州にはメンバーが少なく、グループはあるが参加者が少ないので他州のグループに参加してもらっている。首都特別地域については NSW 州と統合されている。

Q. 代理出産で親になるゲイカップルは増えていますか?

SBS で、代理出産で親になったゲイカップルのドキュメンタリー（Tony and Lee “Two men and a baby” 2008）を見たことがきっかけで代理出産に興味をもった。そしてすぐにそのカップルに連絡をした。代理出産に興味をもつゲイカップルのためのグループが必要だという認識を共有できた。それがきっかけで、このグループが始まった。代理出産に関心を持つゲイカップルは多くいて、メンバーは飛躍的に増加していった。グループでは今、メンタープログラムをメンバーに提供している。専属のメンターがついて、これから代理出産に取り組むカップルに助言をする。代理出産のプロセスはとてもストレスフルで “The emotional rollercoaster” のようだから、そういったサポートがあると心強いと思う。グループには代理出産で親になろうとする息子を心配する母親からのコンタクトもよくある。

Q. 養子と代理出産のどちらが主流でしょうか?

断然、代理出産が主流だ。養子はゲイカップルだけでなく、全てのカップルにとってとても難しい。4 万人の待機があるのに対して毎年 17 人しか養子候補となる子どもがいない。永久里親(permanent foster care)で最終的に養子にできる制度は NSW 州では少し緩められたが、ビクトリア州ではほとんど可能性がない。

Q. 伝統的代理出産と体外受精(借り腹)型の代理出産のどちらが一般的ですか?

QLD 州では伝統的代理出産ができるが、ゲイカップルの間では卵子ドナーを使う代理出産の方が圧倒的(99.99%)に選ばれている。現在の渡航先は、アメリカとカナダがメイン。

体外受精型の代理出産が好まれる理由として、依

@Yuri Hibino

頼者の方は代理母の心変わりを恐れているし、代理母の方も同じように依頼者の心変わりを恐れているからだと思う。卵子ドナーを依頼した方が、両者にとって都合がいい。

愛着(Bonding)の問題はある。ゲイカップルの依頼者としては、(生物学的)母親と子どもを無理やりに引き離すようなことはしたくないという気持ちがある(※卵子ドナーを使えば、そうした懸念が緩衝されるという意味)。

Q. ゲイカップルとレズビアンカップルの双方が協力して子を持つケースはありますか? そのメリットとディメリットは何でしょうか?

共同親権は、以前はかなり行われていたが、今は代理出産があるので、少なくなってきている。代理出産と共同親権の両方で子を持っているカップルもいる。共同親権は親の数が多いので難しい問題があるし、それに代理出産のようにきちんとスクリーニングがなされていない。また、法律家が関与することもあるが、どちらか一方の立場についてしまう。だからむしろソーシャルワーカーとか家族関係のセラピストに、もしこうなったらどうするかなどブレーンストーミングをしてもらったほうがいいと思う。レズビアンカップルの多くは IVF クリニックを使うのを好んでいる。

Q. ゲイカップルが国内で代理出産にアクセスする時に何か障壁となるものはありますか?

特にないと思う。異性カップルでも代理母を見つけるのは難しい。ただ、代理母から見てゲイカップルは好まれやすいということはあると思う。異性カップルと代理母の関係はどうしても緊張しがちだから。異性カップルの中には不妊治療を長年受け続けて失敗している人も多いので、心理的な負荷が代理母に対して非常にかかってくる。ゲイカップルの場合は代理出産が初めての取り組みなので、もっとハッピーな気持ちでスタートできる。

ゲイカップルは代理母に人気だといわれている。とくにエージェントでは、良い代理母を選ぶことが重要だし、良い代理母がいるエージェントは顧客からの良い評価につながる。それはエージェントの宣伝にとって非常に重要なポイントになる。

問題は、多くのゲイカップルが子どもを抱くことが最大の関心事で、そのことばかり考えて代理母の幸せにはあまり無関心がない人もいる。そういうこともこのグループでは共有して対応している。

Q. オーストラリア国内で代理出産にアクセスするのが難しいですが、海外での代理出産を利用する場合、ゲイカップル固有の障壁や難しさはありますか?

以前はインド、タイ、カンボジア、ネパールなどがゲイカップルに代理出産を提供していたが、犯罪的な行為によって、今は禁止になった。ジョージア、ウクライナ、ギリシアはゲイカップルを受け入れていない。これらの国でゲイカップルに代理出産を提供しているエージェントもあるみたいだが、違法だし、オーストラリアに帰国する際に問題になると思う。今残っているのはアメリカ、カナダ、そしてメキシコでもおそらくやっている。

現在、アメリカが一番信頼できるシステムだと思う。カナダでは利他的だということになっているが、代理母に 28,000 ドルまでの補償が認められていて、アメリカより費用はかからないものの代理母を見つけられる機会はアメリカより限定されている。

Q. 海外で代理出産を依頼した場合の卵子ドナーは匿名がほとんどだと思いますが、子どもの出自を知る権利についてグループではどのように考えていま

すか?

ビクトリア州では出自を知る権利が法律で認められていて VARTA が管理している。しかし海外では匿名の卵子ドナーが使われるケースが多い。そのことに関して、グループではメンバーに対して慎重に考えるように促している。アメリカの卵子ドナーは若くて報酬(〜12,000 ドル)が目的の人がやはり多い。以前、グループでは、過去に匿名ドナーを依頼したメンバーの要請を受けて子どものために情報を提供してくれるかどうか、卵子ドナーに尋ねてもらえないかとエージェントを通して依頼したこともある。そういうこともあるので、やはり事前に十分に検討すべきだ。

Q. 子どもたちは代理出産や卵子提供で生まれたことをどのように受け止めていますか?

やはり一番大事なことは最初から話すことだと思う(ゲイカップルの場合はそれしか選択肢がないのだが)。これまでわかってきたことからは、ドナーの情報にアクセスできることが保障されており、その上で、子どもに真実を話すことによって、こどもは自分自身のことをよりよく知ることができる。そうやって子どもが自分自身の物語をしっかりとつくることで、卵子ドナーに会う必要性がなくなる。そしていつだれにこの話をするか、自分で決めることができるようになる。嘘をついて後からそれがわかると、子どもが混乱し、卵子ドナーに会いたいなどと言い出すようになるのではないかと思う。

自分の子どもたちにはどうやって生まれてきたのかきちんと説明しているので、子どもたちはそれほど気にしていない。子どもたちのアイデンティティは家族とか愛がある環境の中で作られる。自分とパートナーは子どもたちのために代理母の写真も入れて、ストーリーブックを作った。

Q. ゲイカップルと子どもたちは、卵子ドナーや代理母たちとはどんな関係性を持ちますか?

卵子ドナーより代理母との方が近しい関係をもつことが多い。アメリカやカナダで代理出産を依頼した場合、代理母とは妊娠中からしょっちゅうコンタクトをとって、出産の時も立ち会うことも少なくない。だいたいはそのあとも関係は続く。タイで依頼した場合、代理母はコンタクトを望まないし、英語を話せないのでコミュニケーションが難しい。

自分の見解では生物学的関係は最重要なことではない。ただ代理母は子どもの出生に関わる物語の中で重要な人物だと思う。アメリカでは、代理母とそのあとも関係を持ちたいか持ちたくないかでエージェントがマッチングをしてくれる。

卵子ドナーに関しては、80%のゲイカップルはコンタクトをしていないと思う。あとの 2 割は少しだけコンタクトがある。ただ代理母ほど親密ではない。その理由は、卵子ドナーは若いので、(比較的高齢な依頼親と)話が合わないというのもあると思う。

Q. 海外代理出産の場合に子どもとの法的親子関係はどのように成立しますか?

国内で代理出産をやる場合は、親権は裁判を経て付与される。異性カップルでも同性カップルでも変わらない。海外代理出産の場合、オーストラリアに子どもにとっての法的親はいない。オーストラリアの法律では、精子を提供した人物はただのドナーで、法的権利はない。あくまでも現地の代理母とその夫が法的親(彼らが親権を放棄していたとしても)とみなされる。たとえ現地で発行された出生証明書に依頼親の名前が書かれていたとしても、それは法的親を決定づけるものではない。そこは異性カップルとは異なる。裁判を得て正式な親権を得ようとするゲイカップルもいる。できないことではないが、お金も時間

もかかるので簡単ではない。

このような状況は、子どもにとって理想的とは言い難いのは確かだ。しかし現在のところ、代理出産で親になるゲイカップルは社会経済階層が高く、子どもたちの教育に対する関心も高い。彼らは、子どもたちには家族は(法律ではなく)愛で結ばれていると教えている。そういう考え方をこのグループでは大切にしている。

法的親子関係がないので、子どもたちに資産を相続させるためには手立てを講じなければならない。これは両親と祖父母にとって重要なことだ。また、医療的なケアを指示する場面で、子どもは両親に対する法的権利を持たないことになる。ただ、実際に親子関係を証明する必要性は、日常生活の中では低い(例えばチャイルドケアのサービスを申し込むときなど、そこまで証明する必要はない)。子どもの市民権の申請やパスポートの更新時は少し複雑になる。それ以外の日常生活は割とスムースな方だと思う。

Q. ゲイカップルの家庭内での家事・育児の分担はどうなっていますか?

それについての研究もあって、それによると、異性カップルと同じようにどちらかが家にいるというパターンが多いようだ。これは働き方やどちらが収入が多いかなどの要因で決められる。どちらも家にいて子どもの世話をしたいが、代理出産はお金がかかるのでどちらか収入が多い方が働き続けなければならない。夜勤をする人もいるので、その場合は子育てを交代にすることもできる。ゲイカップルでは授乳ということがないので、子育てを平等に分担できる。どちらか一方が消耗するというような関係ではない。この点で、ゲイカップルは、女性から羨ましがられることもあるくらいだ。

Q. Gay Day Australia では政治に対する働きかけをしていますか?

Rainbow Families ではロビー活動をやっているが、このグループではやっていない。当事者に対するサポートや啓発を提供するのがグループの目的だから。

Q. グループとしてこれから代理出産を希望するメンバーに対してどんな啓発をしていますか?

四つの側面でメンバーにサポートをしている。

一つは心理面。母親がいないことになるが大丈夫か? あなたたちが親になるが大丈夫か? 両親には話したか? カミングアウトを済ませているか? (※半分以上が白人+アジア人のカップルだから家族はとても重要で、家族にすらゲイだとカミングアウトできていない。)

二つは経済面。国内でやるのか海外でやるのか? 最後まで経済的に大丈夫か?

三つはプロセスについて。エージェント探しから子どもの誕生まで。そのプロセスはとにかく emotional rollercoaster だ。たくさんのことを決めなければならないし、やることはたくさんある。

四つは子どもが生まれてからのことについて。出国のための準備。病院、保険、飛行機にどうやって乗せるか、親権、出国審査などなどについて準備が必要だ。

Q. ご自分の経験をシェアしてください。

パートナーは台湾人で、13 歳の息子はアメリカでの代理出産で生まれた。さらに、自分の知り合いのカップル(一人は台湾人)で精子提供が必要だったので、パートナーが精子を提供して二人の子供が生まれた。共同親権を持っていて週末に会うような関係を 9 年間も続けている。また 2015 年頃だったと思うが、精子提供をして欲しいと自分が頼まれた。それで

Monash IVF で施術してもらって子どもができた。さらにそのパートナーも妊娠したいといって、6 ヶ月前に子どもが生まれたばかり。

自分はこのように家族が広がっていくという考えがとても好きだ。これ以外にも精子提供で 5 人の子どもが生まれている。自分のパートナーはアジア系だが、アジア系ドナーへの需要があるから。だから自分のパートナーは 3 組の異性カップルに提供して 5 人の子どもがいる。

自分たちカップルは Monash IVF で提供したとき、ドナーがモノとして扱われているような違和感を覚えた。女性にフォーカスしていて、精子ドナーはクライアントではなくただの suppliers だと考えられている。だから精子ドナーはもっと敬意をもって扱われなければならないと思っている。

自分たちは旅行をするときにも、同性カップルの結婚に寛容か、代理出産に寛容かを気にして移動する(乗り換えも含めて)。USA なら場所による。サンフランシスコやニューヨークは良い。でもロスは避ける。中東、アフリカ、東ヨーロッパ、フランスやドイツは避ける。どうしても必要な時はとても注意している。台湾と日本は今まで問題はなかった。

2019 年 12 月

(まとめ　日比野由利)

Gay Dad Australia

Gay Dads Australia